経営情報システム

2026年合格目標 TAC教材

1次公開模試　第15問

c　NFC（ISO/IEC 14443 Type B）に対応したリーダー機能をもつスマートフォンは、マイナンバーカードのICチップ内と通信ができる。（○）

1次上級答練　第19問

ウ　RAID 0（ストライピング）は、データを複数のディスクに分散して書き込むことで、読み書きの高速化を図るが、冗長性はない。（○）

エ　RAID 1（ミラーリング）は、同じデータを複数のディスクに書き込むことで、冗長性を高めるが、利用できる記憶容量は2台のディスクを使用する場合、ディスク総容量の半分になる。（○）

1次養成答練　第19問

d　RAID5とRAID6の違いは、RAID6が2重のパリティ情報を持ち、2台のディスクが同時に故障してもデータを復元できる点である。（○）

1次情報未出題論点ゼミ第2回　第8問

仮想化の種類と特徴に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

a　デスクトップの仮想化（VDI：Virtual Desktop Infrastructure）は、利用者ごとに割り当てられた仮想デスクトップがサーバ上で稼働し、端末には画面情報のみが送信されるため、OSのパッチ適用やアプリケーション更新は端末単位で実施する必要がない。（○）

c　ストレージの仮想化におけるブロックレベルの仮想化は、ファイルシステムを意識しない入出力（I/O）を提供するため、データベースやトランザクション処理など、高いI/Oが要求される用途で多く利用される。（○）

令和8年度 中小企業診断士1次試験

本試験　第1問

無線通信技術は、日常生活のさまざまな場面で活用されている。そのような無線通信技術の1つにNFCがある。NFCの特徴や応用例に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア　IC運転免許証（ICカード免許証）やマイナンバーカードのICチップの情報を読み取るのに用いられている。（○）

本試験　第2問

ア　RAID 0は、ミラーリングと呼ばれる方式で、複数のディスクに同じ内容を書き込み、信頼性を向上させる。（×）

イ　RAID 1は、最低3台のディスクで構成され、そのうち1台が故障してもリアルタイムにデータの復元ができる。（×）

ウ　RAID 1は、ストライピングと呼ばれる方式で、データをブロック単位で複数のディスクに分散することで、アクセスを高速化する。（×）

エ　RAID 5は、パリティ付きストライピングと呼ばれる方式で、ディスクが2台同時に故障してもリアルタイムにデータの復元ができる。（×）

本試験　第3問

仮想化技術は、種々の物理的なコンピュータ資源に対して用いられている。仮想化技術に関する記述の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

b　サーバ上にユーザ専用の仮想マシンを割り当て、ユーザが社内だけでなく、自宅や外出先にある端末からネットワーク経由でデスクトップ環境を利用できるようにする技術。（○）

d　複数の物理ストレージ装置を論理的に統合し、1つの記憶領域（ストレージプール）として管理する技術。（○）

1次公開模試　第8問

以下に示す表は、ある小売店が利用している受注管理表の一部である。この表に関する正規化の観点からの記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。なお、受注管理表の下線は主キーを示す。

受注管理表

受注番号	明細番号	商品コード	商品名	数量
S001	1	K01	冷蔵庫	2
S001	2	K02	テレビ	10
S001	3	K03	掃除機	4
S002	1	K01	冷蔵庫	5
S002	2	K03	掃除機	3

〔解答群〕

ア　第1正規形ではない。（×）
イ　第1正規形であるが、第2正規形ではない。（×）
ウ　第2正規形であるが、第1正規形ではない。（×）
エ　第2正規形であるが、第3正規形ではない。（○）
オ　第3正規形である。（×）

1次完成答練①　第7問

以下に示す表は、ある専門学校における特定期間中の開講クラスの一覧である。

この表に関する正規化の観点からの記述 a ～ c の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

なお、この表の主キーは「クラス開講 ID」であり、また、それぞれの講師はクラス開講 ID の異なる同一名の科目を担当することがある。

クラス開講ID	科目コード	科目名	講師コード	講師名
CL01	S10	情報システム基礎	L01	佐藤　一郎
CL02	S10	情報システム基礎	L01	佐藤　一郎
CL03	S10	情報システム基礎	L02	鈴木　二郎
CL04	S11	データベース応用	L02	鈴木　二郎
CL05	S11	データベース応用	L03	田中　三郎
CL06	S11	データベース応用	L03	田中　三郎

a　第1正規形である。（○）
b　第2正規形である。（○）
c　第3正規形である。（×）

本試験　第7問

次の表 A ～ D のうち、第1正規形であるが第2正規形ではない表の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。項目名の下線は、その項目が主キーであることを表す。また、研修 ID、部署 ID、メンター社員 ID に対して、それぞれ、研修名、部署名、メンター社員氏名は、一意に定まるものとする。

A

社員ID	社員氏名	入社日	出身
2511001	情報 葉月	2025-04-01	東京都

B

社員ID	研修ID	研修名	評価
2511001	3422	ビジネスマナー	S

C

社員ID	社員氏名	部署ID	部署名
2511001	情報 葉月	U302	情報システム部

D

社員ID	メンター社員ID	社員氏名	メンター社員氏名
2511001	2012345	情報 葉月	中小 博士

〔解答群〕

オ　BとD（○）

1次養成答練　第14問

ア　IP（Internet Protocol）は、通信相手との信頼性のあるコネクションを確立し、データの再送制御を行うプロトコルである。（×）
イ　ICMP（Internet Control Message Protocol）は、通信経路上でのエラー通知や到達確認など、ネットワークの制御や診断に利用されるプロトコルである。（○）
ウ　ARP（Address Resolution Protocol）は、MAC アドレスから IP アドレスを取得するために使用されるプロトコルである。（×）
エ　TCP（Transmission Control Protocol）は、アプリケーション層のデータを暗号化して転送するためのプロトコルであり、UDP よりも高速である。（×）
オ　NTP（Network Time Protocol）は、ネットワーク上の複数の端末間でファイルを転送するためのプロトコルである。（×）

1次完成答練②　第13問

プロトコルに関する次の記述と、それらに対応する名称の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

③　メールクライアントソフトウェアがメールサーバに保存されている電子メールの内容をクライアントへ一律に移動させる際に用いられるプロトコル。
④　IP のエラーメッセージや制御メッセージを転送するプロトコルである。
⑤　TCP/IP のネットワーク管理プロトコルであり、ネットワーク接続されている機器の情報を収集し、監視や制御を行うために用いられる。

〔解答群〕

ア　③：IMAP（×）　④：Telnet（×）　⑤：SSH　（×）
イ　③：POP3（○）　④：ICMP（○）　⑤：SNMP（○）
ウ　③：IMAP（×）　④：Telnet（×）　⑤：SNMP（○）
エ　③：POP3（○）　④：Telnet（×）　⑤：SNMP（○）
オ　③：POP3（○）　④：ICMP（○）　⑤：SSH　（×）

本試験　第9問

ア　ICMP とは、IP アドレスから対応する MAC アドレスを調べるためのプロトコルのことである。（×）
イ　IMAP とは、電子メールをサーバに保存したまま、複数の端末から管理・閲覧するためのプロトコルのことである。（○）
ウ　NTP とは、ネットワークに接続されている機器の情報を収集し、監視・制御するためのプロトコルのことである。（×）
オ　UDP とは、データ転送において速度よりも信頼性を重視し、通信相手と接続してから通信を行うコネクション型のプロトコルのことである。（×）

1次上級答練　第24問

a　信頼性（Reliability）はシステムの故障のしにくさを示し、指標としてMTBF（平均故障間動作時間）が用いられる。（○）

b　可用性（Availability）はシステムが使用できる時間の割合を示し、「MTBF /（MTBF + MTTR）」で計算される。（○）

c　保守性（Serviceability）は故障からの復旧のしやすさを示し、指標としてMTTR（平均修復時間）が用いられる。（○）

d　完全性（Integrity）は、情報の正確さや完全性が維持されている度合いを示し、ハードウェアの冗長化によって高めることができる。（×）

本試験　第10問

ア　信頼性（Reliability）とは、誤操作や障害などによるデータの喪失や不整合の起こりにくさのことをいう。（×）

イ　可用性（Availability）とは、データ量の変動に対する拡張のしやすさのことをいう。（×）

ウ　保守性（Serviceability）とは、メンテナンスや障害からの復旧のしやすさのことをいう。（○）

エ　完全性（Integrity）とは、機器の故障など、障害発生の起こりにくさのことをいう。（×）

オ　安全性（Security）とは、システムの稼働が期待される時間に対する実際の稼働時間の割合のことをいう。（×）

1次経営情報システム「ITトレンド用語」チェックゼミ　第1章

P.20

DAOは、特定の所有者や管理者が存在せず、ビジョンに賛同する人が集まり、参加者同士の投票で意思決定を行い、事業やプロジェクトを推進する組織である。

P.11

メタバース（Metaverse）は、超越や高次などの意味を持つ「Meta」と、宇宙を表す「Universe」を組み合わせた造語で、仮想現実（VR）や拡張現実（AR）、および他のデジタルテクノロジーを利用して構築された、デジタル上の仮想空間を指す。

P.13～14

デジタルツインは、リアルの世界から収集したデータを活用し、デジタル空間の中にリアル空間と同じものを再現し、その環境を利用してシミュレーションなどを行うもの、あるいはそれを活用したシステムである。

デジタルツインと類似した用途としてCPS（サイバーフィジカルシステム）がある。CPSは実世界（フィジカル空間）にある多様なデータをセンサーなどを通じて収集し、サイバー空間で大規模データ処理技術を駆使することで分析し、知識化を行い、創出した情報や価値を再び実世界に戻して産業の活性化や社会問題の解決を図る仕組みを指す。

P.18

スマートコントラクトは、ブロックチェーン上で契約を自動的に実行する仕組みのことである。

P.14

ブロックチェーン技術は、もともと政府や中央銀行などの中央管理者から規制や管理を受けることなく、自由な取引を実現するために開発されたビットコインという暗号資産（仮想通貨）を支える基盤技術として開発された。情報通信ネットワーク上にある端末同士を直接接続して、暗号技術を用いて取引記録を分散的に処理・記録するデータベースの一種である。分散型台帳技術ともよばれる。

本試験　第12問

ア　DAOとは、ユーザ間でコミュニケーションが可能な、インターネットを通じてアクセスできる、仮想的なデジタル空間のことである。（×）

イ　サイバーフィジカルシステムとは、サイバー攻撃を防ぐための物理レイヤ暗号技術を用いたシステムのことである。（×）

ウ　スマートコントラクトとは、契約または合意の条件が満たされると契約内容を自動的に実行・記録する、ブロックチェーン上に保存されたプログラムのことである。（○）

エ　デジタルツインとは、ロボットなどの移動体が移動しながら自分の位置を推定し、同時に周囲の環境地図を作成する技術のことである。（×）

オ　ブロックチェーンとは、現実世界のデータの整合性を維持する台帳を、1つのサーバで一元的に管理する技術のことである。（×）

1次上級答練　第14問

ウ　レグレッションテスト（回帰テスト）は、プログラムの修正や変更によって、意図しない影響がプログラム修正や変更とは関係ない機能に及んでいないかを確認するために実施される。（○）

本試験　第15問

イ　回帰（リグレッション）テストとは、プログラムを修正した場合、修正していない他の部分に影響が現れていないかどうかを確認するテストのことである。（○）

1 次養成答練　第 24 問

情報システムの構築プロジェクトを EVM（Earned Value Management）によって管理している。このプロジェクトの進捗状況が次のように与えられている。

・BAC（Budget at Completion：完成時総予算）… 1,200 万円
・EV（Earned Value：出来高実績値）… 600 万円
・AC（Actual Cost：コスト実績値）… 750 万円

このとき、これまでのコスト効率が今後も続くと仮定した場合の EAC（Estimate at Completion：最終的なコスト見積り値）として、最も適切なものはどれか。

1 次上級答練　第 18 問

プロジェクト管理手法である EVMS（Earned Value Management System）に関する問題である。あるプロジェクトの開始から一定期間が経過した時点で、以下の指標が得られた。この時点でのコスト効率指数（CPI）とスケジュール効率指数（SPI）の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

・完成時総予算（BAC）：2,000 万円
・出来高計画値（PV）　：　800 万円
・コスト実績値（AC）　：　700 万円
・出来高実績値（EV）　：　600 万円

1 次完成答練②　第 21 問

ある中小企業では、BAC（Budget at Completion:完成時総予算）が 4,000 万円、開発予定期間が 1 年間のプロジェクトを EVMS で管理している。半年が経過した時点で EV（Earned Value：出来高実績値）が 1,000 万円、AC（Actual Cost：コスト実績値）が 3,000 万円であった。このプロジェクトが今後も同じコスト効率で実施される場合、完成した時にどれくらいのコスト（EAC：最終的なコスト見積り値）がかかると予想できるか、最も適切なものはどれか。

1 次完成答練①　第 20 問

ウ　システム構想フェーズにおいて、ユーザ企業がシステム化の要件を明確に示せない場合、発注先候補のベンダに情報提供を依頼する文書を RFP とよび、これに基づいて具体的な提案を受けるプロセスを RFI とよぶ。（×）

本試験　第 19 問

A 社では、BAC（完成時総予算）が 1,200 万円のシステム開発プロジェクトが進行中である。プロジェクト期間は 4 カ月である。このプロジェクトに関する以下の文章の空欄①～③に入る数値の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

プロジェクト開始から 2 カ月経過した時点で進捗を把握したところ、AC（コスト実績値）が 500 万円、EV（出来高実績値）が 480 万円であった。したがって、この時点での CPI（コスト効率指数）は［　①　］である。

4 カ月のうち 3 カ月経過した時点での出来高計画値（PV）は 900 万円に設定されている。この時点での SPI（スケジュール効率指数）が 0.9 以上となるためには、EV は［　②　］万円以上でなければならない。

3 カ月経過した時点で進捗を確認したところ、EV は［　②　］万円であり、AC は、729 万円であった。このままのコスト効率でプロジェクトが進んでいくと、予測される完成時の総コストは［　③　］万円である。

本試験　第 21 問

業務システムの導入検討では、まず現場の業務フローをヒアリングし、課題や改善ニーズを整理する。システム導入の目的に適合している製品やサービスが分からない場合は、必要に応じて［　A　］を作成し、ベンダーから調達や開発に必要な情報を収集する。次にシステム開発の背景や現状の課題、機能面の仕様、予算や希望納期などをまとめておき、適任のベンダーを選定するために複数のベンダーに対して［　B　］を配付する。各ベンダーから提案を受け取り、デモンストレーションやヒアリングを通じて比較検討を行う。ベンダー選定にあたっては、コストだけでなく、導入実績、サポート体制、与信情報、将来的な拡張性なども重要な評価視点となる。選定後は、納期や契約条件について詳細な調整を行い、正式な契約締結へと進む。

〔解答群〕

ア　A：RFI（○）　B：RFP（○）
イ　A：RFI（○）　B：RFP（○）
ウ　A：RFP（×）　B：RFI（×）
エ　A：RFP（×）　B：RFI（×）
オ　A：RFP（×）　B：RFQ（×）

1次上級答練　第9問

a　ゼロデイ攻撃とは、ソフトウェアの脆弱性が発見されてから、修正プログラムが提供されるまでの期間を狙って行われる攻撃である。(○)

c　ランサムウェアは、コンピュータ内のファイルを暗号化して使用不能にし、その復号と引き換えに金銭（身代金）を要求するマルウェアである。(○)

d　DoS攻撃（Denial of Service attack）は、標的のWebサイトやサーバに対して、1台のコンピュータから大量の処理要求を送りつけ、サービスを妨害する攻撃である。(○)

1次完成答練①　第14問

①　感染したコンピュータ内のファイルを暗号化して復号の身代金を要求するプログラムであり、近年の中小企業における主な侵入経路として、VPN機器やリモートデスクトップの脆弱性、不審なメールが挙げられる。

④　ソフトウェアの脆弱性が発見されてから、その修正プログラム（パッチ）や回避策が提供されるまでの無防備な期間に、その脆弱性を悪用して行われるサイバー攻撃のことである。

⑤　著名な企業を装ったメールから偽のWebサイトへ誘導し、クレジットカード番号やパスワードなどの機密情報を奪取する手口である。

〔解答群〕

ア　①：ランサムウェア（○）　④：ゼロデイ攻撃（○）
⑤：フィッシング（○）

イ　①：ソーシャルエンジニアリング（×）　④：トロイの木馬（×）
⑤：フィッシング（○）

ウ　①：ランサムウェア（○）　④：トロイの木馬（×）
⑤：マクロウイルス（×）

エ　①：ソーシャルエンジニアリング（×）　④：ゼロデイ攻撃（○）
⑤：マクロウイルス（×）

1次完成答練②　第15問

a　サプライチェーン攻撃とは、セキュリティ対策が比較的手薄な取引先や関連会社、あるいは利用しているソフトウェア製品などを踏み台にして、ターゲット企業へ侵入する手口である。(○)

1次公開模試　第14問

a　多数の攻撃用コンピュータを事前に用意し、攻撃者の指示により一斉にDoS攻撃を行う手口である。

d　感染したコンピュータ内のファイルを閲覧・編集できない形に暗号化し、暗号化されたファイルの復号の身代金として、マルウェアの制作者に金銭を支払うよう要求するプログラムである。

〔解答群〕

ア　a：DDoS攻撃（○）　d：クロスサイトリクエストフォージェリ（×）
イ　a：DoS攻撃（×）　d：ランサムウェア（○）
ウ　a：DDoS攻撃（○）　d：クロスサイトリクエストフォージェリ（×）
エ　a：DoS攻撃（×）　d：クロスサイトリクエストフォージェリ（×）
オ　a：DDoS攻撃（○）　d：ランサムウェア（○）

本試験　第22問

ア　DDoS攻撃とは、標的のサーバやネットワークに対して、複数のコンピュータから大量のリクエストを集中させて過負荷状態にし、正常なサービスの継続を妨害する攻撃である。(○)

ウ　バックドアとは、標的とする企業ではなく取引先などを狙い、そこを踏み台にして攻撃を行うことである。(×)

エ　バッファオーバーランとは、修正パッチが存在しない未知の脆弱(ぜいじゃく)性を突く攻撃である。(×)

オ　フィッシングとは、他人のコンピュータのファイルを暗号化することで正常にアクセスできない状態にし、元に戻すために身代金の支払いが要求される攻撃である。(×)